

生徒が能動的に活動できるような授業構成 —ペア・アクティブラーニングを活用して—

埼玉県さいたま市立浦和南高等学校・太田敏之

1. はじめに

生徒2人組で机をくっつけて相談したり説明したり教えあったりするペア・アクティブラーニングの方法をもとに、板書、問いかけのタイミングなどの基本的授業スキルを考慮に入れた、生徒が能動的に活動できるような授業構成について提案する。

2. ペア・アクティブラーニング

筆者が行っているペア・アクティブラーニングとは、生徒2人組で机をくっつけ、主に以下の3つのような活動を行う授業形態のことである。

(1) 解法や概念の相談活動

発想が難しい解法や難しい概念について相談させる活動である。

(2) 解法や概念の説明活動

問題の解法や考え方を説明させたり、重要な考え方や用語を説明させたりする活動である。

(3) 演習の解答での説明活動

演習問題において、まず生徒がひとりで問題を解いた後、解答を授業者が全体で説明したり生徒に発表させたりする前に、ペアで解答が同じかどうかを確認させる活動である。

3. 能動的に活動できるような授業構成

生徒が能動的に活動できるような授業をするためには、受動的に授業を受ける時間をなるべく少なくし、能動的に活動する時間を増やすように意識することが重要である。そのために必要なことは、「時間の管理」と「的確な指示」であると考えられる。筆者が行っている、ひとつのテーマにおける主な授業の流れは以下の通りである。

① 概念・例題の板書

② 概念・例題の説明

③ 概念に対する問いかけ

④ 概念・例題の理解整理

⑤ 演習

⑥ 演習問題の解説

(1) 概念・例題の板書

扱うテーマにおいて重要な概念や扱う例題の問題を板書する。時間を予告してから、ノートをとるのを一旦やめさせる。

(2) 概念・例題の説明

ノートをとるのを一旦やめさせて、生徒全員が筆記用具を置いたのを確認し、黒板の方を向かせてから説明を始める。

(3) 概念に対する問いかけ

概念の説明や例題の解説の時間で、重要な概念や考え方について生徒に問いかけて考えさせる。概念に対する問いかけは、次の①～③のステップをうまく活用して授業を展開する。

① 生徒全員に考える間を与える

30秒くらい間をとり、生徒全員に考えさせる時間を設ける。これによって、その間生徒は能動的に考えることができる。

② ペアワークを行う

ペア・アクティブラーニングの活動として、重要な概念や考え方を相談させたり、互いに説明し合ったり、答えを確認し合ったりする。

③ 生徒を指名して発表させる

生徒をランダムに指名し、答えを発表させる。

(4) 概念・例題の理解整理

例題の説明が終わった段階で時間を区切り、生徒にノートをとらせまとめさせる。この段階でまだわからないことがある場合には授業者も質問を受けるが、なるべく生徒がペアで教え合うように促す。

(5) 演習

例題の解説が終わり、演習問題を解く場面では、まずペアの生徒と相談せずひとりで解かせるようにし、次に生徒の様子や時間を見計らって、ペアの生徒と相談して解いてもよいという指示を出す。

(6) 演習問題の解説

生徒が演習活動している間に授業者が黒板に答えを書き、生徒はペアでの解答確認作業が終わった後に黒板の解答を見て答え合わせをするように指示する。

4. おわりに

研究発表会ではそれぞれの活動の目的や長所と具体的な授業実践について報告する。